

科目名	数的推理 I	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群	
			全 学科	□必修 ■選択
英文表記	Mathematical Processing Skills I	開講年次	■1年 ■2年 ■3年 ■4年	
			開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
ふりがな	むらなか たかし	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	村中 孝司	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	公務員採用試験の教養科目のうち、最も出題数の多い数的推理を取り組む。特に、方程式、不等式、整数など、出題頻度の高いテーマを学習する。			
到達目標	数的推理マスターを目指す。			
授業概要	公務員試験教養科目「数的推理」の基本を理解し、演習問題を解く。			
授業計画				
第1回	ガイダンス	数的推理を学ぶ意義と目標		
第2回	方程式①	文字式、等式、方程式		
第3回	方程式②	方程式の文章問題		
第4回	不等式①	不等号、不等式、連立不等式		
第5回	不等式②	不等式の文章問題		
第6回	整数①	自然数、倍数、約数、素数		
第7回	整数②	最大公約数、最小公倍数とその応用問題		
第8回	整数③	合同式、剰余類		
第9回	整数④	合同式、剰余類に関する応用問題		
第10回	整数⑤	倍数、約数、剰余類に関する融合問題		
第11回	整数⑥	虫食い算、覆面算、魔方陣		
第12回	整数⑦	記数法		
第13回	実践問題①			
第14回	実践問題②			
第15回	前期の総括			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	小学校算数、中学校数学、高等学校数学I・Aを理解しておくことを前提に授業を進める。予習2時間、復習1時間程度必要です。予習していること(例題に目を通すこと)を前提に授業を進める。			
履修条件 受講のルール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公務員(大学卒程度)を目指す学生対象。基礎数学Iを履修済み、もしくは同時に履修することが望ましい。基礎数学Iの内容を理解していることを前提としている。 2. 遅刻厳禁、1分でも遅れた場合は例外なく欠席扱いとする。 3. 教科書を必ず持参すること。教科書を持参しない場合は例外なく欠席扱いとする。 4. 予習、復習を心がけること。予習したかどうかを授業中に確認することがある。予習していないことが判明した場合は欠席扱いとする。 5. 授業には筆記具は必須である。教科書のほか、ノート(ルーズリーフ可)を必ず持参すること。 6. 第1回、第2回の両方ともに欠席した学生の受講を認めない。 7. 授業中のスマートフォン使用、居眠り等に対しては、厳重に処分する。 			
テキスト	田辺勉『上・中級公務員 標準数的推理』実務教育出版			
参考文献・資料	講義中に紹介する。			
成績評価の方	試験(70%)、レポート・課題提出・小テスト(30%)			

法	<p>上記評価項目を基にして総合的に判断する。再試験は例外なく実施しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができない。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とする。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とする。 ・レポート課題は授業内又はポータルサイトで指示する。
オフィスアワー	火曜 14:40～16:10、水曜 14:40～16:10 その他の曜日時間帯も可能、予約必要なし。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	公務員試験に数的推理（類するものとしてSPI試験の非言語）が出題されるのはなぜなのでしょう。公務員として働く意欲のあるみなさん、数的推理のような教養試験がどのように採用試験に関係しているか、考えてみてください。